

練馬区の将来像を考える区民懇談会

環境まちづくり分科会

第3回 議事概要

日時：平成19年10月22日(月)18:30～20:30

場所：練馬区役所本庁舎20階 交流会場

出席者【敬称略、50音順】

浅野祐介、石田節子、市川哲也、加藤勝義、加藤眞一、加藤龍一、要久美子、小林俊彦、関口陽一、田中麻起子、沼田美穂、平田英二、深野一民、福澤節三、蒔田實、柳洋子、渡邊義雄

1. 討議

(1) 全体説明

- コーディネーターの原田氏より、本日のプログラムについての説明と前回の懇談会の振り返りが行われ、討議したいテーマによる参加者のグループ分けを行った。

【質疑】

委員

- ・みどりと農地と親水・治水については関連性があるので、同じテーマで議論した方が良いのではないかと。

原田コーディネーター

- ・3つのテーマで参加希望を確認し、グループ分けをしたい。

委員

- ・例えば、近いところの移動には自転車を利用するとか、エアコンを使わずに自然の風を取り込むといった取り組みを進めるなど、区民がエコライフを進めていくといったテーマは何処に入るのか。

原田コーディネーター

- ・今のご意見だと、「4. まちの美化、リサイクル」「5. 交通(自転車、道路、渋滞、交通安全)」にまたがるが、この後の希望テーマの確認段階で第一希望、第二希望まで出して頂きたい。
- ・各自希望するテーマの所に、名前をポストイットに記入し、貼り出して頂きたい。

(2) グループ別討議

- 前回の懇談会の取りまとめ結果をもとに、テーマ別に3グループに分かれて討議を行った。

【討議結果要旨】詳細は別紙(「第3回練馬区の将来像を考える区民懇談会～環境・まちづくり分野」グループ討議結果)参照

グループ分け(敬称略、50音順)

グループA: 加藤勝義、加藤龍一、要久美子、深野一民、福澤節三、蒔田實、渡邊義雄

グループB: 石田節子、小林俊彦、田中麻起子、平田英二、柳洋子

グループC: 浅野祐介、市川哲也、加藤眞一、関口陽一、沼田美穂

(3) 全体発表と意見交換

- 討議結果について発表と質疑応答を行った。

グループC: 交通・環境・リサイクル他

- ・ごみの問題とリサイクル関係、自転車、交通の大きく4つのテーマについて課題が提示され、その解決方法等について議論した。
- ・ごみについてはごみの出し方のマナーの問題とたばこのポイ捨ての問題があげられている。これに対して、防鳥ネットの貸出などの区の取り組みを普及啓発していくこと、またポイ捨てに対する罰則規定を条例に設けるべきといった意見が出された。
- ・リサイクルについては、分別が徹底されていないことが大きな問題になっている。これについては啓発の徹底が必要である。浦安市ではごみゼロ課という課を設置しているが、練馬区でもこうした意気込みを示すことも重要ではないか。また、リサイクルの拠点を増やし、気軽にリサイクル出来る仕組みを考えてはどうかという意見が出た。
- ・交通については、自転車の違法駐輪が多く、大きな問題になっている。小さな商店街でも駐輪場を身近な空間に設置したり、駐輪場設置に対する助成基準の台数制限を緩和したりすることも必要ではないかという意見が出た。
- ・交通については、練馬区では踏切が交通渋滞を引き起こしているため、この解決が必要である。また、電柱が歩行者・自転車の往来を妨げるため、電柱の地中化が必要という意見が出た。その他、自転車道の整備やペロタクシー(自転車タクシー)の活用などの意見が出ている。

グループB: みどり・農地・親水空間

- ・練馬は一人当たり公園面積にすると、人口が多いため小さい値になっているが、一般的にみれば緑は恵まれた状態にあると思う。それは、憩いの森や農地が多いことによる。
- ・しかし、今後はこのままいけば公園は増えず、農地は減少し、宅地開発により緑も減少していくだろう。

- ・それに対して、将来像として、生活の中での緑をとらえて助成する仕組みを作りたい。その中で、土を供給するような仕組みづくりも必要である。
- ・また、練馬区の大きなポイントとして憩いの森を活用することもあるだろう。現状では中に入りにくい、利用しにくい環境になっているが、積極的に利用出来るようなものにしておきたい。
- ・例えば、憩いの森の中に小屋があり、ご長寿さんが休んでおり、そこに子どもが入っていくことができるといったアイデアも出された。また、憩いの森の枝を切り、その木を活用したり、童話の森といった憩いの森に対する特徴付けなどのアイデアも出されている。
- ・緑は土がないと育たないので、緑よりもむしろ「土を守る」、地域住民が自分たちで手を加えながら土を守るという観点が重要である。
- ・将来像としては、緑を守ることよりさらに一步進めて「緑を楽しむ」ことができる練馬区になって欲しいという内容で議論した。

グループA：みどり・農地・親水空間

- ・農地が減少しているため、それをどのように保全していけば良いかということ議論した。その結果、相続や税金の問題もからんでおり、こうした点を解決しないと現状のままでは全て失われてしまうのではないかといった意見が出された。
- ・白子川の遊水池や農地などの水源涵養地がないと川が枯れてしまうため、守っていくべきだと言う議論がなされた。
- ・千川上水などは暗渠になっているが、できれば開渠にしていだきたいといった意見も出された。
- ・緑や川を戻したりすることについて、区としては計画を立てているがそれがあまり知られていないことから、広くPRするとともに、学校教育を通じて浸透していくことも必要ではないかという議論がなされた。

(質疑)

委員

- ・リサイクル関連施設を誘致する場所が少ない。これから人口が増えていく中で、リサイクルを進めるためには、埼玉など他地域の施設を利用せざるを得ない。区の指導の元に、用地確保についてご協力頂きたいと思っている。

委員

- ・発表の補足であるが、リサイクルに関して、Bグループでは家庭から出る生ゴミを憩いの森の落ち葉と一緒に堆肥にしてはどうかという意見も出された。

- ・また、地下水を維持するためには雑木林が重要であるので、そういった視点からみどりの保全について議論することが必要と感じた。

委員

- ・個人的な意見であるが、生活道路の中には車を入れないエリアを設け、子どもの安全な遊び場でありコミュニケーションの場にするということも重要ではないか。幹線道路は、車主体の道路であり、それとは別に地域の人々の道路をつくるのが、自転車利用の安全性の確保という観点からは有効な取り組みではないか。

委員

- ・今後区民が活躍する場が増えてくると思う。行政組織の規模のあり方については議論もされているが、行政がする仕事の量は限られてくると思う。それに対して、区民が地元を守っていくというためには、気持ちを盛り上げていくことも重要である。
- ・できるだけ、区民の方々が時間をもてあますことのない仕組みづくりができると良いと思う。

2 . その他

- 今後の進め方等について説明があった。

原田コーディネーター

- ・今までは自由議論をして頂くこともあり、最終形についてはあまり提示しなかった。
- ・とはいえ、どのようなアウトプットを目指すのかがわからないと議論出来ないという感じもあったように見受けられたので、次回以降他のグループと調整しながらアウトプットイメージを提示する方向で検討したい。

3 . 次回予定

- ・次回は、11月21日（水）18:30～20:30に東庁舎603号室で開催する。

（以上）